

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成28年度 業務実績評価書

平成29年 8月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4~7
	第1-① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	第1-② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	第1-③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	第3 財務内容の改善に関する目標	
	第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	第5 その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を十分に実施している。
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(4) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある ※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある ※ 評価委員会が特に認める場合

(注) 評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

□ 全体評価

年度計画に定めた全ての項目が着実に実施されており、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

第2期中期目標期間の初年度となった平成28年度も、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、大学院を研究拠点と位置づける取り組みとして、大学院改革案を検討し、改革案の骨子となる将来のあり方やその方向性を決定した上で、大学院研究科委員会に報告したことである。具体的には、修士課程（2年）と博士後期課程（3年）を博士課程（5年）の一貫制大学院（1研究科、1専攻制）とするとともに、各研究領域の専門性に立脚しつつ、主領域の指導に他領域の指導を柔軟に取り入れ、実技と理論を連動させた領域横断型の複数指導体制による大学院教育の実現により、芸術の多様な領域で横断的に活躍できる高度専門職業人を育成することとしている。

このほか、以下に、大学の特色ある取組や工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 教育の質の向上に関しては、専攻を超えた全学的な進路支援体制を整備するため、キャリア支援室を新たに設置し、在学生へのアドバイス会を地元就職相談会に併せて開催したこと。総務省の制度を活用し、金沢市と学生の県内定着率向上等を目的とする連携協定に基づき、学生が県内企業について理解を深め、意見交換を行う場として、地元企業との就職情報交換会を開催したこと。
- ・ 研究の質の向上に関しては、4K画質で「平成の百工比照」収集作成事業の紹介映像や蒔絵の技術記録映像を制作したこと。また学内に収集資料の展示を行う公開施設「美術工芸研究所ギャラリー」を整備し、教育に反映できるようにしたこと。
- ・ 社会連携に関しては、開学70周年記念式典等において、230名以上の関係者を招き大学の魅力発信に努めたほか、収蔵作品をはじめ、美術、工芸とデザインに専門を分けて記念展覧会を開催し、約16,000人もの来場者を集めるなど大きな成果を上げたこと。
- ・ その他業務運営に関しては、学長が中国や韓国を訪問するなど、アジア地域における高等教育機関との連携強化を目的に、アジア美術戦略会議を立ち上げたこと。

□ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の 60 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 7 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 53 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 大学院を研究拠点と位置づける取り組みとして、大学院改革案を検討し、改革案の骨子となる将来のあり方やその方向性を決定した上で、大学院研究科委員会に報告したことである。具体的には、修士課程（2年）と博士後期課程（3年）を博士課程（5年）の一貫制大学院（1研究科、1専攻制）とするとともに、各研究領域の専門性に立脚しつつ、主領域の指導に他領域の指導を柔軟に取り入れ、実技と理論を連動させた領域横断型の複数指導体制による大学院教育の実現により、芸術の多様な領域で横断的に活躍できる高度専門職業人を育成するとしていること。
- ・ 企業や地方公共団体からの依頼について、社会連携運営会議において内容と教育的な効果を確認した上で、産学連携事業を 11 件、地域連携事業を 16 件実施し、各種表彰において受賞作品も出るなど社会から高い評価を受けたこと。
- ・ 学生の社会連携活動を単位化することについて検討した結果、製品デザイン専攻において、受託した社会連携活動を担当学年の授業の一部に取り込み対応したこと。
- ・ 学生との意見交換会や相談室等での学生からの要望を受けて、学内環境の改善や「金沢美術工芸大学における学生の旧姓、通称名及び自認する性別使用の取扱いに関する要領」を定めるなど、要望に柔軟に対応したこと。
- ・ 障害学生支援として「金沢美術工芸大学における障害のある学生への支援に関する基本方針」を策定し、公開したこと。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の 18 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 1 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 17 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 「平成の百工比照」収集作成事業において、未整備分野への収集を強化するため、漆工分野で市内作家の工房から関連資料を一括収集したこと。また映像資料として、百工比照事業の紹介映像と蒔絵の技術記録映像を 4 K画質にて制作したこと。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の 18 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 3 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 15 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 開学 70 周年記念式典・記念展覧会において、大学の魅力発信に努めたほか、広報映像を著名な卒業生が制作したことも含め、各種の広報媒体を作成して効果を上げたこと。
- ・ 学長が中国や韓国を訪問するなど、アジア地域における高等教育機関との連携強化を目的に、アジア美術戦略会議を立ち上げたこと。また、交流協定締結校と教員及び学生の派遣・受入を行い、連携事業を推進するとともに、協定締結校以外の機関とも積極的な交流を実施したこと。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。)
----	-------------------------------

年度計画記載の 19 の小項目全てがⅢ評価（年度計画を十分に実施している）であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 成美会（保護者会）や同窓会、経営審議会等からの意見聴取を実施し、外部の視点を踏まえた教育研究のあり方に関する検討を各科・専攻で引き続き行うとともに、従来の専攻縦割りの専門教育のあり方を是正し、各研究領域の専門性に立脚した領域横断型の複数指導体制による大学院教育を実現するための大学院改革の骨子とその方向性を定めたこと。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。)
----	-------------------------------

年度計画記載の 13 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 4 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 9 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 文部科学省科学研究費補助金の公募に 5 件、科学研究費助成事業や各種助成金の公募に 8 件、合計で 13 件の申請を行い、この申請に伴う採択件数が 5 件であったこと。
 - ・ 外部資金の導入に積極的に取り組み、「かなびサポーター」制度を中心とした教育研究基金、教職員の研究助成および卒業・修了制作展の開催助成として合計 7,422 千円の寄附を受けたほか、新たに広範囲からの寄附金の募集を可能とした「開学 70 周年記念基金」を創設し、企業 17 社から 3,972 千円の寄附を受けたこと。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の8の小項目全てがⅢ評価（年度計画を十分に実施している）であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

- 特筆すべき点
 - ・ 広報戦略を強化するため、平成29年度から新たに広報戦略会議を立ち上げることを決定するとともに、大学パンフレットの全面改訂を実施し、受験生や関係者への情報発信を強化したこと。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

年度計画記載の21の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が3項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が18項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

- 特筆すべき点
 - ・ 金沢美術工芸大学移転整備基本構想について、附属の美術館やメディアセンター、留学生の拠点場所となる国際交流センター等、新キャンパスにふさわしい機能の設置を盛り込んだ具体的な提案を行うなど、大学の将来像を見据えた取り組みを図ったこと。
 - ・ 衛生委員会による職場巡視を行うとともに、不衛生なゴミステーションの改善や旧式トイレの改修などを実施することで、教職員の労働環境の改善及び学生の教育環境の充実を推進したこと。